

3月2日(水)

本年度第31回(通算2577回)12時30分～ 釧路プリンスホテル

『IMに向けて』

担当/理事会

☆お客様と来訪ロータリアン

・山本秀基君 IM実行委員長(釧路西RC)、加納則好君 IM副実行委員長(釧路西RC)
・向山松秀君 (札幌RC)

☆メイクアップ

2月12日	中嶋嘉昭君・坂入信行君・小松亮次君・萩原昭博君 田村憲一郎君・石井東洋彦君・菊池美恵子君	財団セミナー
2月12日	小松亮次君・村井順一君・菊池美恵子君	会員増強セミナー
2月23日・24日	足立功一君	第2580地区大会

☆出席報告【会員総数65名 免除11名 出席計算に用いた会員数65名】

2月16日 出席及びメイクアップ数 38名 出席率 58.5%

☆ニコニコ献金(今年度累計 515,000円)

- ・講師、本日宜しくお願い致します。昨日3人目の孫が生まれました 三原克也君
- ・山本IM実行委員長、本日宜しくお願い致します 泰地浩幸君
- ・中島谷委員の発表デビューを記念して 沼沢東三君
- ・誕生日ケーキありがとうございました。そして3月生まれの方おめでとうございます。 田中和紀君

☆会長挨拶

皆さんこんにちは。2月に入り最初の例会です。明日3日は節分、4日は立春ですが、先週のひな祭り例会は、百枝委員長はじめ親睦家族委員会の皆様には楽しい企画を練っていただき、ありがとうございました。また釧路吹奏楽団の皆さんには、演歌からポップス、ジャズまで、幅広い演奏で楽しませていただき感謝申し上げます。各種イベント等で生の演奏をご希望の方は、事務局三浦さんが窓口になっておりますのでご相談ください。

本日の例会は「IMに向けて」となっています。この会の目的は会員相互の親睦と知識を広めることであり、さらに、会員にロータリー情報を伝え、奉仕理念を勉強するために開催されます。本日、お忙しい中、講師として釧路西RC山本IM実行委員長をお迎えいたしております。後ほど内容についてお話を伺います。どうぞよろしくお願ひいたします。

☆幹事報告

①本日の回覧は

- ・釧路西・東・南・ベイ・根室・浜中RC様よりプログラムの案内と会報です。
- ②ロータリーの友とガバナー月信、月報をメールボックスに入れました。ご確認お願い致します。
- ③先日IMのご案内を皆様へ送りました。出欠の締め切りは5日(土)までですので、宜しくお願ひ致します。詳しい内容につきましては、山本IM実行委員長に後ほどお話をいただきますので宜しくお願ひ致します。



☆講師

足立功一 PDG

〈IMに向けて：
多くの皆さんの参加を
期待します〉

2010～2011年度・第7分区のIMが、3月19日柴田和明ガバナーの主催により、川島洋人ガバナー補佐のリーダーシップの下に釧路全日空ホテルで開催されます。

IMとは、Intercity Meetingの事で、都市間連合会と訳されますが、IMの主催者はガバナーであり、分区の規定では、主幹はその時のガバナー補佐、実施主体はガバナー補佐が指名するクラブであります。だいたいIMグループごとに輪番で行っていることがどこの地区・分区でも同じようであります。

日本でのIMは、昭和43年に日本人初のRI会長である東ヶ崎潔氏が会長に就任する前年に、東京クラブがホストとなり招集した関東地方IMが最初であります。

【起源と歴史】

1912年にサンフランシスコRCが、その前年に誕生させた子クラブのオークランドRCとの親睦を温めるために開いたのがその始まりであります。この会合が成功裏に終わったので、再度開催されたのである。当初は、『Transbay Love Feast』と名づけられましたが、1914年、この種の会合は国際ロータリー連合会（国際ロータリーの前身）から正式に認められました。

【ICGFからIGF、そしてIMに】

当初ICGF(Intercity & Club General Forum)と呼ばれましたが、1976年からIGF(IntercityGeneral Forum)の名称に変更されました。

初期には、そのリーダーは連合会会長によって任命され、分区レベルのフォーラムとしては会議費・旅費等もRIから支弁されておりました。

その後、RI理事会より経費節減を理由に、地区開催の『一日講習会 One-day Institute:一日特別研究会』とするよう奨励がありました。

日本では1968年（昭和43年）3月5日、東ヶ崎潔(Kiyoshi Togasaki) 次期RI会長の就任により召集され、東京RCがホストクラブとなって銀座東急ホテルで行われた『関東地方インターシティミーティング』が最初のIMに当たります。1986年版英文の手續要覧には次のように記載されている。

『Encourage Each Club to Participate in at least one intercity meeting during each year』クラブは毎年少なくとも1つのIMに参加することを奨励するとされました。

【RIの変遷】

●1949-50 RI理事会『ロータリーの情報及び教育を

目的として都市連合ゼネラルフォーラムは実際的に且つ有効な手段であり、ロータリークラブの集団が、その集団の中心地に全会員を招いて、RI新・旧役員が司会を努め、午後か夜の会合でロータリーの一般性格や計画について研究討議する会合を開くことを奨励する』

●1957-58 RI理事会『RI会長指名のリーダーによる完全なプログラムを実施するだけの出席が期待できない場合には、地区ガバナーは都市連合ゼネラルフォーラムを夜又は午後或いは夜の集会にして、リーダーを地区又は近隣地区から求め、RIに費用をかけずに行うよう奨励する』

●1968年にはRI理事会によってルールが改訂され、RIの財源的理由からプログラムより除外された。但しRI理事会から『ICGFを開催するか否かはガバナーの裁量に委ねる。RIから経費は支弁しない』との通達があった。

●1981年版手續要覧には次の様に記載されている。『ロータリーの友情及び研究のための手段として、ロータリーの一般性格や計画案についての研究討議をするフォーラムである』

IMは文字通り親睦・友情を主体とする会合であり、外国でのIMは、あまり堅苦しい規則もなく、親しい仲間同士の数クラブが集まり合同例会を開き、親睦と日頃の疎遠を埋め合う友情交換の場であるという意味合いがあった。

◆1912年：サンフランシスコとオークランドRCが親睦と情報交換を持ったのがIMのはじまり。

◆1914年：RIがIMを推奨プログラムとして承認

◆1950年：手続き要覧にIM開催義務化の記載

◆1968年：日本ではじめてのIM開催に東京RCがホストして関東地方のRCが参加

◆1969年：RI理事会はIMに関知しないことを決定。地区ガバナーの裁量に移行。

◆1989年：IGFの名称からIMの名称に変更

◆1998年：手続き要覧からIMの記載が抹消。

今では分区毎の開催となり、ロータリー問題だけでなく地域の社会問題をも話し合う会になってきたIM。しかし、毎年出席する会員は同じ人で、年ごとに参加者の減少をきたしていた。しかし、2年前に開催されたIMでは、第7分区、第8分区合同で開催され、多くのロータリアンが出席した素晴らしい会であった事は記憶に新しい。IMに参加する、しないと言う問題以前に、IMを全く理解していない会員も多く、今回のIMに関しては是非多くの会員の出席を得て素晴らしい討論の場として頂きたい。